

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100206		
法人名	有限会社 熊進企画		
事業所名	グループホーム錦ヶ丘		
所在地	熊本市錦ヶ丘26番11号		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村受理日	平成22年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4390100206&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4390100206&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成22年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者一人ひとりのペースに合わせて、その人らしい生活ができるよう心がけ、支援を行っている。  
 ・1階がデイサービス。3・4階が高齢者住宅と多機能を活かし、合同での行事を年に数回、開催し交流を図っている。  
 ・月に1度は全職員参加の会議を設け、年間事業計画の進捗状況の確認や新たな課題についての検討、様々な勉強会を実施し自己研鑽に努めている。  
 ・2ヶ月に1回の運営推進会議の案内書を、ご家族全員に送付すると共に通信として、お一人おひとりの写真を載せて体調や近状を報告し遠くに住むご家族も生活状況がわかるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の「まだまだこれから」というホーム運営について、意欲的な姿勢に職員が応え、信頼関係ができており、ホーム全体が穏やかな感じがある。介護度の高い入居者が多く、ホーム内は静かで、リビングでは職員と入居者の会話が静かに流れ、落ち着いた雰囲気。デイサービス、高齢者住宅併設という多機能型の法人中にあり、合同の行事や災害対策等に活かされ、夜間の緊急体制も複数の職員の応援が可能となっている。また、共有型デイサービスを導入し、新規に多様な交流も生まれている。運営推進会議では地域の協力が得られ、ホーム自体が外へ向けての動きも出来るようになり、地域の一員としての運営されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念の唱和を全員で行い、毎日の目標を職員一人ひとり立てて、目標を持った仕事ができるように実践している。	その人らしい生き方の尊重と、安心して地域の住人となるための支援が謳われている理念を、全職員が理解し共有している。毎朝のミーティングで唱和し、ひとり一人が目標を持って、理念に沿ったケアに取り組む、努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の話し合いや、校区のサロンの手伝い及び行事に参加している。	地域の自治会に加入し、ボランティア会議や校区サロン等へも参加。校区のサロンの当番時にはホームへの理解を深めるため認知症の勉強会やホーム見学会等を実施している。また、校区社協や民生委員等、地域との交流も活発で地域の一員としての活動がみられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンの話し合いなどで話したりしている。また中学校の職場体験や資格取得の為の実習生を受け入れて認知症の理解を深めてもらうよう努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の入居者の方の状況及び行事報告を行い様々な意見を頂いている。	自治会長、地域包括、民生委員等、入居者、家族に加え多くの参加を得て開催されている。特に全家族に参加を呼び掛け、行事報告や「情報の公表」についても報告。推進委員の「地域とのふれあいが大事」という観点から、ホームから出て行くだけでなく、新しい風をホームへ迎えるための工夫も必要と、貴重な提言を受け、実行に移す等の取り組みが見られた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない点は積極的に市に尋ねるようにしている。また地域の会議時には保健師との情報交換を行っている。	共有型デイサービスの導入の際に指導を受けたり、困難事例には連絡を取り相談する等、関係作りができています。地域の社協会議やサロン開催時には保健師の参加もあり、相談助言を得る機会も多く多様な連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や月に1度の職員会議にて勉強会を開き、日々のケアの中でも拘束にならないか常に話し合いながらケアを行っている。	どんなことが拘束になるか、日々のケアの中で常に考え、月1回の会議で認識の共有を図っている。その場での気付きは職員間で注意しあう等信頼関係もできている。また、日頃スピーチロック等についての自己評価等が実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて学ぶ機会を持ち、職員は行動や言葉による精神的虐待にならないよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で地域包括支援センターの所長さんより勉強会を開いてもらったり、社内研修や職員会議の中でも勉強会を開いているが内容が深く活用できるまでには至っていないと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には個別に説明し不安や疑問が残らないよう心がけて話しあっている。また改定時にはお知らせを行い、個別に説明を行い理解・納得を頂いてから記名・捺印してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、なかなか活用がなされていないのが現状である。その為、アンケートを地域の方も含めて実施し内容は運営推進会議の中で公表を行い、職員会議にて検討を行い今後に活かせるよう努めている。	意見箱の設置はあるが、あまり活用されないため、外部評価のアンケートにヒントを得て、利用者・家族の他に地域を含めたアンケート調査を実施。結果は運営推進会議に公表して職員会議に提案し、ケアの向上につなげる等の努力が見られる。	なかなか意見が出ないとのことですが、家族会があり、気楽に話し合いができると、違った意見も出てくるのではないかと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングの中で意見や提案を行い意見交換を行ない質の向上になるよう努力している。	職員は自己評価を実施し自分のケアの振り返りや、どんなGHを目指すのか等の意見・提案をし、互いの反省点から更にケアの質の向上を目指している。また、会議の担当を決め自分の興味のあることや不得意分野を研修し、その成果を職員会議で発表し、職員全体の意識の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホームに頻繁に來られ、職員に対して声をよくかけてもらっている。また環境や条件の整備については個別に話せる機会を設けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修の実施に協力してもらっている。また資格取得においても積極的に優先できるよう理解してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内にある計3ヶ所のグループホームとの合同会議が開催されるようになり、お互いが持つ悩みなどを共に話し合い質の向上ができるよう努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員、アセスメントでの情報把握を行い、声かけや会話を密に行うことにより、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族と何度か面談を行い、不安なことや要望などを聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	24時間アセスメントシートを活用し、いつ・どの場面において支援が必要かを判断し支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などは分担して行うように努めており、不安などへの共感を行い共に暮らしていくよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を伝え又、家族・入居者の方両方の思いなどを仲介し伝え関係を築いている。またご家族も共に過ごせるような行事を計画し案内している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室などには行ってもらえるよう配慮している。また友人の方へは面会の案内を行っている。	行きつけの美容院へ家族と共に行ったり、墓参りや法事等、1人ひとりの生活習慣の継続へ援助がおこなわれている。また、知人友人への面会案内を実施したり、地域の民生委員さんの訪問もあり大変喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の行動気質を把握し関わり合いが保てるよう仲介・声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移行後も、ご家族からの相談などがあり、その場合は支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で本人の思いなどを聞き、意向に沿えるよう支援している。また困難な場合はご家族と話し合いを持ち、本人らしい生活ができるようにしている。	行事計画を作る時、行きたい所の希望を聞き、花見等が実現している。日頃の会話や動き、表情で気持ちを察知しつつ、本人の意向の把握に努めている。また、面会等の機会をとらえて入居前の暮らしを聞き、思いや希望に添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人・家族からお話を聞き、職員間で話し合い実践できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間アセスメントシートの活用と日々の会話や行動分析により、できる事・できない事の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス内容の検討や変更・継続の有無を定期的にカンファレンスなどで話し合い変更があれば介護計画書の変更を行っている。	3か月に1度ケアの見直しを行い、家庭に報告し意見を聞いている。日常のケアは担当制で24時間アセスメント記録を行い、その中から問題点や課題を見出し、介護計画を充実させ、よりよいケアを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書の実践項目の記入や、気づきや職員の思ったことを記録することにより介護計画書の見直しに反映できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年に数回の合同行事を計画し参加を行っている。また他事業所とは情報の共有に務め、いつでも応援できるような体制作りを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事には地域のボランティアの方々との協力を進めており民生委員さんからのボランティア紹介なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医との関係を断ち切ることなく受診を行っている。また電話などでの相談や情報の共有に努めることで、よりよい関係作りを行っている。	各自かかりつけ医の受診継続が支援されている。病院受診は家族が対応し、緊急時や家族が遠方の場合には職員が同行している。受診結果は家族に報告されており、数名の入居者は定期的に往診を受けており、その都度家族へ報告され、家族の医療に対する考え方や思いの把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、細やかな状況でも報告を行い、看護職はいつでも状態が把握できるよう努めている。また気軽に相談できる体制作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院に際してはご家族との話し合いを持ち、安心して入院治療ができるよう配慮している。また退院時は病院への訪問を多く持ち、退院できる体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・医療関係者を交えた話し合いを持ち、ご家族への十分な説明の中で事業所のできる事、また困難な事を理解してもらっている。	終末期ケアの受け入れ方針があり、家族や医療関係者を交えた話し合いが行われている。同意書は取られていないが、家族の意向はアセスメントに記録されている。医師や家族の協力のもと看取りへの対応も積極的に捉え、夜間対応の不安はあるが、事業所内の高齢者住宅スタッフとの連携による対応も考慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修の中でAEDの操作方法や蘇生法を実践し、緊急時の連絡方法も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し地域との方とも避難方法の話し合いを運営推進会議を通して行っている。また社内においては随時、避難方法や協力体制の見直しに努めている。	定期的に訓練を実施。火災通報電話も設置し、キューネットとの契約や地域消防団との協力体制を確保している。また、ミーティングで意見交換を行う等、災害対策に関するホームの意識は高く、近くスプリンクラーの設置も予定してされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが言葉かけには注意し、またお互いに注意し合っている。排泄時などの方法も話し合い実践している。	一日の行動のプログラムがないのがホームの生活であるとの方針。本人の自由意思を尊重し、かますぎないケアを心がけ、午後は自室で過ごす人が多い。排泄時も様子で察知し声かけにも注意し、さりげない促とバスタオルを使用し尊厳を守る工夫をする等の心づかいが見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出時など利用者に尋ねたりして計画を立てている。また話しやすい雰囲気作り、声かけに工夫し自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握・大切にし、ゆっくり過ごせる時間・場所の把握・支援を行っている。また事故のないよう注意しながら、ご本人がやりたいことを行っていたいでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は、ご本人に洋服を選んでもらっている。また髪型も、ご本人の要望に応じて支援している。(片麻痺でも長い髪が好きな方は伸ばしたままでセットを職員が行っている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査などで好みの把握を行うと共に、できる方へは調理から盛り付け、食器洗いなどを一緒に行っている。	嗜好調査を行い、結果を母体事業所の管理栄養士に伝え、本人の好みを取り入れたメニューが作られている。誕生会や花見弁当等、行事には特別メニューの楽しみもある。入居者も調理や盛り付け・後片づけに参加する等、能力に応じた食事の楽しみ方が出来ている。	食事中静かすぎるのが気になり、和やかな雰囲気づくりが必要と思われました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態の提供に努めている。食事摂取量の把握を全員行い、必要に応じて水分量もチェックし脱水にならないよう配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助・全介助など一人ひとりに応じた対応を行っている。また必要に応じて定期的な歯科受診・健診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、表情や時間に応じて声かけ・誘導を行ないトイレ排泄に努めている。	入居者の排泄パターンを把握し、出来る限り誘導による排泄の自立の支援に努めている。オムツの使用者は4名で、食事の前後に取り換を確認されていた。夜間はポータブルトイレを使用し安全な排泄へも対応もみられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取・水分摂取量の把握を行い、必要に応じて栄養士や医師へ相談を行っている。また日頃より乳製品などを多く取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午前・午後共に入浴できるよう配慮を行い声かけしている。また拒否の場合はご家族や職員の声かけの協力を得ている。	個別で毎日の入浴も可能(同性対応)で、午前と午後の希望にも沿っている。入浴剤の代わりに、やわらかなアロマオイルの香りを楽しむ工夫が見られた。また、職員のアイデアでのバラの花風呂も実施され、好評を得ている。入浴拒否者には無理強いせず家族と相談し、医師からの伝言ですよと誘いをかける等の対応も取られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整に気を配りながら安眠できるよう配慮を行っている。また時間に応じて居室・リビング等で過ごされている入居者の状態も把握し休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が処方内容を把握している。また変更時は申し送りノートに記入している。服薬時は2人でチェックを行いミスがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調に合わせて家事手伝いの声かけや好きな漢字ドリルを行ってもらったりランプゲームができるよう配慮している。ビールが好きな方には飲んでいただけるよう声かけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など体調や天候を見ながら支援している。また季節毎の外出行事には地域のボランティアの方に依頼し支援して頂いている。家族の方にも声かけを行い一緒に出かけることができるよう配慮している。	日頃はホーム周辺の散歩が主となっているが、事業所の車を利用しての動植物園や花見等への外出もあり、家族に呼びかけたり、ボランティアの協力も得て外出の楽しみを増している。また、近くにある錦ヶ丘公園での「どんどや」にも参加し、入居者に喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金をさせていただいており、本人の希望時は買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができる方は少ないが、仲介にて手紙の代読を行い、電話の時は一言でも話してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたインテリアの使用を行っている。また冷暖房が効きすぎないように温度調整を行うと共に換気を行うよう配慮している。	玄関を入るとオープンカウンターの事務室があり、常に入居者の動きが把握可能な仕組みになっている。フロアの中央には低めのソファやテレビがあり、ベランダへと続き、洗濯物干し台や鉢植えの野菜等も置かれ、水やりが入居者の日課となっている。後方にカウンター付きのオープンキッチンがあり、横にあるダイニングテーブルで喫茶店の雰囲気でお茶を楽しむ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダに椅子を持っていき一人で過ごせるよう配慮を行い、ソファや食卓など好きな場所で過ごせるよう調整を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは使い慣れた物を持ってきてもらい、ご本人の住んでいた部屋と同じようなベッドや家具の配置に心がけている。またどうしても家具を動かす時は本人と家族と共に話し合い了解を得ている。	各部屋24時間対応の換気が設備され快適。広い出窓には花やお気に入りの小物が置かれており、落ち着いた雰囲気となっている。使い慣れたベットや筆筒、テーブル、椅子等持ち込まれ、若い頃の写真や家族の写真が飾られた部屋は、その人の個性が伺われ居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレートの文字を大きくしたりトイレの名前も入居者の方が理解できる言葉に変えて表示している。		